

土曜

SATURDAY

# ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

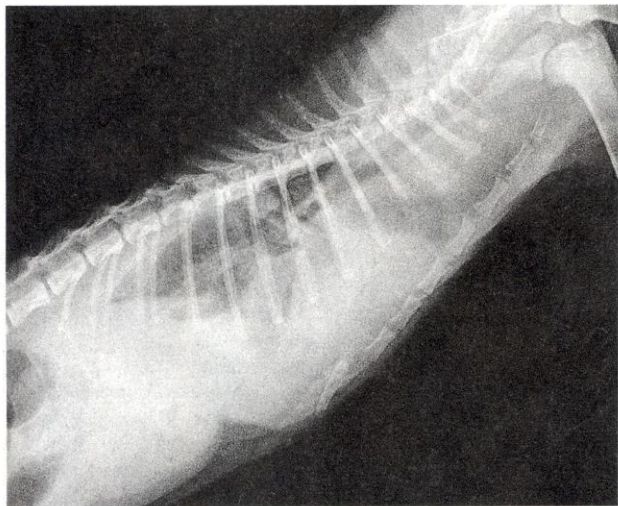


泉沢動物病院長  
(氷見市柳田)

泉澤 洋一

犬は暑い時や運動後に口を開けて呼吸をすることはよくありますが、猫では非常にまれなことです。これは、鼻腔や胸腔に重大な問題を抱えているサインとなります。その中に猫で比較的良好に見られる膿胸という病気があります。膿胸とは心臓や肺のある胸腔に膿が溜まった状態を指します。初期には発熱や食欲の低下を示し、元気がなくなります。進行すると膿の量が増えるため、肺が胸腔内に大きく広がれなくなることで、呼吸が速くなり、口を開けて呼吸するようになります。末期になると、呼吸不全や病原菌が血液に入ることにより全身が侵されるため

## 猫の膿胸に注意



膿胸になった猫のエックス線画像。白く見える大量の膿により、黒い肺の部分が圧迫されている

し、来院時の多くは重度の呼吸困難を伴い、検査のために興奮させただけで、死亡してしまうこともあります。膿胸自体は、胸腔内の膿を出し、よく洗浄した後に、抗生剤を長期間投与すれば完治しますが、手遅れの状態や悪性腫瘍が原因の場合などは治療が困難です。

すぐに動物病院で受診しましょう。膿胸になることを完全に防ぐことはできませんが、けんかや交尾による接触を軽減させるために不妊手術を受けることをお勧めします。伝染病が原因となる場合もありますのでワクチンの接種を受けましょう。食道を傷付いたりしないように、キャットフード以外を与えないようにすることも効果的です。歯石の付着から病原菌が体内に侵入しないよう歯磨きなどで口腔内をきれいに保つことも予防につながります。

## 外傷から病原菌が侵入

死亡します。原因は、胸腔内に病原菌が感染することです。侵入経路は、胸膜炎や肺炎による二次的な感染、外傷による胸壁の外部からの侵入、異物などによる食道の傷からの侵入

入などがあります。呼吸困難を示す病気には、胸水の貯留や心筋症、交通事故などの原因による横隔膜ヘルニアなどがあり、診断のためには血液検査やエックス線検査が必要です。しか

ば完治しますが、手遅れの状態や悪性腫瘍が原因の場合などは治療が困難です。日頃から身体に傷がないか、呼吸がおかしくないかなどよく観察してください。異常が見られたら